横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議　第５回会議　会議概要

■日　　時　　平成 28 年２月 18 日（木）10:00～12:00
■場　　所　　市役所３号館５階正庁
■出 席 者　　【構成員】
玉村雅敏氏（座長）、澄川貞介氏（座長職務代理）、豊田奈穂氏、石坂颯都氏、原田絵里子氏、秋本義紀氏、川俣幸宏氏、菊池匡文氏、菅隆氏、福本憲治氏、國重正雄氏、中西正人氏、小山嚴也氏、中島栄一氏、峯村明彦氏、渡邉啓二氏、元木実氏、森下浩行氏、山西恒義氏、吉田秀樹氏、伊藤智則氏、佐川展裕氏、平松廣司氏、篠原恭久氏、小野明男氏　（以上 25 名）
【事務局】
上条政策推進部長、中野渉外担当部長、竹内財政部長、秋本経済部長、
都市政策研究所　古谷政策・自治基本条例担当課長、宮川課長補佐、
加藤主任、鈴木主任
■欠 席 者　　永津勝司氏（構成員）
■傍 聴 者　　２名
■資　　料　　・資料１　横須賀市人口ビジョン（案）
・資料２　横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）
・資料３　横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）【別冊】
－戦略に基づく具体的な取り組み（2015・2016 年度版）－
■議事内容　　１．横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
２．その他

概　　要

10:00　開　会

１．市長あいさつ

・本日、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の５回目を迎えて最終回ということだが、この会議だけでなく多くの皆さんから、横須賀のまちの将来をどうしていこうかという観点でご意見をいただいたことに本当に感謝を申し上げる。
・特に、横須賀の課題は人口減少と言われる中で、若い世代に市外からも横須賀を選んでもらえるようなまちにしていかなければいけない。そのような人口分析等をした上で、皆さんのそれぞれの立場からできることを始終ご提案いただいたと思っている。
・また、私たちとしては、行政と多くの皆さんとの連携がスタートする良いきっかけになったのではないかと率直に感じている。これまでも横須賀商工会議所をはじめ、さまざまな事業者の皆さんとは連携をしてきたが、特にこの会議の中では、教育機関や研究機関、金融機関の皆さん、また、横須賀ならではということで、海上自衛隊や防衛大学校の皆さん、こういった皆さんとの連携が深まった、あるいはスタートするきっかけになったことが非常に大きな成果であったのではないかと感じている。もちろん、産官学金

労言という意味では労働組合の皆さん、メディアの皆さんのお力もいただいたわけだが、ぜひ、これを最後にということではなく、ここで生まれた連携をさらに進めていくために、お力をこれからもお貸しいただきたいと思っている。

・今回皆さんからいただいたご意見はできるだけこの総合戦略の中に反映させたつもりである。来年度の予算の中にもそれがかたちとなって表われているものがいくつもある。これを具体化していくには行政だけでできることは本当にわずかで、皆さんと一緒に作り上げていくものだと思っている。まずは、少なくとも計画期間の５年間、ぜひ横須賀の未来のためにこれからもお力をお貸しいただきたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

１．横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

（中西氏）

・５回、全ての会に出席させていただいた。最後は数値目標を盛り込み具体的な施策まで落とし込んだバランスのとれた素晴らしいものになっていると思う。

・項立ててあり分かりやすいが、グラビティポイント、重心点、あるいは焦点、ここを落とせばうまくいくというポイントがある。一つというと難しいだろうが優先順位を付けるとしたらどうなるか。もっと端的に言うと、新聞記事にした時にキャッチーなものがあれば伺いたい。

（事務局：上条政策推進部長）

・この中で基本目標１～４、これらが重点だということで作ったのだが、別冊をご覧いただくと、基本目標１にひも付いている事業が非常に多い。基本目標２も多い。それぞれ大事なのだが、どれだけ政策を打っているのかという数によってご判断いただければと思う。基本目標１、２、３を重点に考えて予算編成、施策を考えたつもりである。

（玉村座長）

・よい質問でありがたい。このポイントが記事になればよいという考えを市で持っているか。横須賀はこれです、というのは何か。

（事務局：上条政策推進部長）

・別冊の２、３ページをご覧いただきたい。＊のところで、観光関連企業の誘致、エネルギー関連企業等の誘致、海洋・海底探査技術関連企業・研究機関等の誘致とあるが、これは、横須賀の特性を生かした取り組みだと思っている。

・また、IoT 分野における最先端技術、世界に冠たる研究所との関連になるが、こちらも特色を表していると言えるのではないか。

・充電インフラの整備に対する助成についても、日産自動車㈱追浜工場で開発している電気自動車の普及がある。

・14 ページになるが、もう一つ特徴的なものとして、ナショナルトレーニングセンターの拡充施設がある。誘致を進めているが、ほかに世界的な大規模スポーツ大会をイメージした誘致活動に取り組んでいく。BMX やスケートボード等のアクティブスポーツ施設は、横須賀商工会議所からの提案もいただいて、実態調査を行って、本市としても非常に有望であるという考えのもとに行っている。

・一番下に国際学会等の誘致があるが、こうしたスポーツに関連する部分、研究機関が多く立地しているという学術の部分などはしっかりと進めていきたい。
・もう一点、16 ページの㈱NTT ドコモとのまちなかインバウンドについて、横須賀に外国の方が非常に多く住まわれているという特徴を生かして、東京オリンピックのインバウンドも見据えてまちなかで色々な商店に外国の方が訪れていただけるような取り組みをしようというもので、それと関連して 18 ページで、英語コミュニケーション環境を多く整えて、子どもたち、一般の方にも英語や外国の方と親しんでもらうことを考えている。
・従って、スポーツ、英語環境、学術関連、この三つを新たに横須賀の特性を使って出していきたいという考えで作成した。例えば小児医療費の拡充など基本的なことはどこの市町村でも当たり前だが、特に特性ということでこのようなことに力を入れたとご理解いただきたいと思う。

（吉田氏）
・私も非常によいものができたと思っているが、資料２の最初のところがどこの市町村でも当てはまるような内容になっているので、今の横須賀の成り立ちのところで、150 年前にできたということを入れてほしい。一番最初にこういう認識を入れておくのは重要かと思う。
・８ページと 15 ページだが、延観光客数が２、３％伸びた値を目標としているが、15 ページの観光客消費額は３、４割伸びている。どのようなイメージで設定しているのか。また、資料１の 33 ページに観光客消費額があるが、推移をみると 40 何億というように見えるが、その辺りの関係を教えてほしい。

（事務局：上条政策推進部長）
・歴史認識、横須賀の成り立ちを踏まえた上でどのように戦略を作っているかという点はなるほどと思う。既に市議会に提出していて書き直すことはできないが、５年の間に検証していく中で盛り込めるよう今後の参考にさせていただきたい。
・ご意見はそのとおりだと思うので、そういう認識を持って行政としてさまざまな場面に臨んでいきたいと思う。

（事務局：秋本経済部長）
・資料１の 33 ページをご覧いただいて、それぞれ宿泊、飲食、その他消費と分かれているが、まず宿泊を増やすことで一人当たりの単価が増えることを目標にする。
・もう一つは、いろいろなグルメ等の PR をして飲食の消費を増やす。横須賀に来た観光客がすぐ横須賀を離れるのではなく、横須賀で食べていただいて泊まっていただいて、ついでに飲んでいただく。そうすれば１人当たり消費額は増え、人数以上に観光消費額が増える。
・観光の目標は観光客を増やすことではなく、最終的にそこで消費していただく金額を増やすことであり、根本的な部分を目標にしているということである。

（吉田氏）
・資料１の３ページの金額との関係はどうなるのか。これを見る限りでは桁が一つ違うような気がする。
・500 億円が大体の実感ということでよいのか。

（事務局：上条政策推進部長）
・データがないので、担当部局に確認に行く。後ほど答えさせていただくかたちでよいか。
・現在、観光立市推進基本計画策定を進めているところで、具体的には、例えば10年後に観光客１千万人という目標を立てている。この人口ビジョンは５年後の途中経過である。
・先ほど宿泊客を増やすと言っていたが、そのためには宿泊施設を新たに誘致しなければならない。それを前提に逆算をしてこの数値にしている。端数があるので非常に分かり難いと思う。こういう政策を打っていけばこれだけ伸びる、伸ばすという積み上げの数字になっている。

（玉村座長）
・可能であれば後ほどお願いしたい。

（川俣氏）
・確認したいが、資料１の人口ビジョンの人口の展望は恐らく目標をもって考えたところだと思う。それに向かってどういう戦略を打っていくのかという位置関係と理解しているが、５カ年の総合戦略で全体が達成されることによる人口に対する影響について、何人に減少を抑える、増やすというような数字はどうなっているのか。
・前向きな話として、そうであれば最終的な目標値はそこになると思うが、そのような理解でよいか、共有させてもらいたい。

（事務局：上条政策推進部長）
・人口ビジョンの93ページをご覧いただくと、第５章として人口の将来展望という章がある。図表５－１の実線と点線の折れ線グラフがあるが、点線は今の合計特殊出生率で今の社会減が進んでいったときに辿るグラフである。実線の方がこのビジョンの目標を達成したときの推移である。将来展望として2060年に28万人とあるが、現状のままの趨勢でいくと23万人なので５万人ほど伸びることになる。
・さまざまな推計がある中で、今、日本の人口１億２千７百万人で、なんとか１億人を維持しようという目標を立てているようなところはあるが、実際に年齢分布を見ると圧倒的に高齢の方が多く、自然減が収まるのは難しい。これを喰い止めるために、社会減の方はなんとかマイナスからプラスにもっていくことはできるが、寿命を延ばしていくことはなかなか難しい。できることは出生率を増やしていくことだと思う。
・92ページで、国が掲げているビジョン、神奈川県が掲げているビジョン、横須賀市が掲げているビジョンがあり、合計特殊出生率は例えば2015年で横須賀は1.33で、神奈川県とほぼ同じだが、国の目標は2020年に日本全体で1.6に、2030年までに1.80、2040までに2.07にするということを掲げている。神奈川県、横須賀市など都市部は合計特殊出生率が元々低いので、国に遅れながら2050年に2.07に近づけていくというかたちでの前提条件としている。
・社会減がなくこうした合計特殊出生率が伸びていくということになれば、93ページの実線の折れ線グラフの範囲になる。我々が今できることとして、実線のグラフになるように取り組んでいく。総合戦略の具体的な事業は５年間なので、５年後の設定までである。その先は長すぎる。５年ごとに振り返りながら次の年度の目標を立てていくことになると思う。

（川俣氏）

・93 ページには 2019 年の数値が出ているが、2,600 人ほど増やすという数値だが、短期・中期のターゲットということでよいか。

（事務局：上条政策推進部長）

・2060 年までの目標ということも考えたが、現実離れすると思い、５年ごとに見直しをしながら立てていくという手法を取っている。
・しかし、将来展望の中での５年間を考えなければならないので、93 ページは参考として付けている。

（平松氏）

・資料３の 33 ページだが、横須賀中央エリアの世帯数を 2,200 世帯にということが目標だが、ここのエリアに含まれない地域の世帯数の減少を抑える目標として数値で捉えることができないのか。
・横須賀市を「住みよい」と思う人の割合は、数値に変化がないが、86.6％は最高によいところでこれ以上は増えないということなのか。少なくとも 90％にしてもよいのではないか。

（事務局：上条政策推進部長）

・横須賀は横須賀中央だけではなく拠点市街地として追浜や衣笠、久里浜がある。基本的に都市計画マスタープランでは、それらの拠点市街地の人口密度が保たれるように目標を立てていて、一つの象徴として横須賀中央エリアを目標に挙げている。
・今、中央エリアが横須賀市の中心なので、象徴的に賑わうことによってその他にも波及効果があるということと、中央エリアは再開発組合の準備会がいくつかできて、それらができた時に指標として測りやすいということがあった。
・他の地域についても検討したが、所管部局で現状と将来に向けた数値を出すことと、どの政策を打ったからこの数値が増減したというような関連付けが難しかった。
・全体的な考え方としては、市内にいくつかある拠点エリアを中心に人口を保っていきたいと思っている。その一つが JR 久里浜駅周辺の未利用地について、そこの絵を描いていこうと思っている。
・横須賀市を「住みよい」と感じる人の割合は、2012、2013 年度は 82％ぐらいであった。2014 年度は 86％で少し高くなっているという状況だが、これが一過性なのか判断が難しい。元々横須賀市はこの割合が高く、三浦市は５割、横浜市は６割程度である。５年後もこの値を保ちたいという趣旨でこの値としている。

（吉田氏）

・今回の基本目標で、定住、特に若い世代に住んでもらえるよう取り組んでいくことが大きな目標だと思う。資料１の 44 ページで、以前、情報通信関係従業者の年齢別の定住率のグラフがあったかと思うが、そういうものを掲載してもらえると、戦略につながりやすくなるのではないかと思う。

（事務局：上条政策推進部長）

・今回、資料１に掲載しているものは、この推進会議の場でお出しした資料の抜粋になっている。全て出すと膨大になってしまうのでエッセンス的なものに絞っている。

（吉田氏）

・定住ということでいろいろな業種の話はあると思うが、子育て世代や若い世代というターゲットにしている年齢層があるので、年齢別の定住率があると人口ビジョンから戦略への流れがよいと思う。

（事務局：上条政策推進部長）

・例えば、資料１の 17 ページに、子どもを持つ 20～40 歳代の転入と転出の状況がある。下のグラフを見ていただくと、転出率は、どこの市区も 15％前後になっている。一方で、転入率では本市は 13.6％と転出超過になっている。逗子市や葉山町は転入率の方が高い。こうしたことから、この世代の転入率を上げていかなければならないという状況にあるという分析をしているので、こちらの資料でも読み取れるのではないかと思う。

（事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長）

・先ほどの観光消費額について、資料１の p33 と、資料２の p15 で、資料１の方は県の資料を元に作成しているが、県で独自に調査を行い、調査への協力店舗の売上額を積み上げて算出している数値となっている。資料２の KPI の数値は、現在、策定を進めている観光立市推進基本計画で用いている数値で、宿泊単価、消費単価に観光客数を掛け合わせたもので市が独自に算出した数値となっている。

（事務局：上条政策推進部長）

・いずれにしても分かりにくいというご指摘はそのとおりで、この資料１のグラフを使って資料２の KPI の数値を出しているような誤解を招く可能性があるので、出し方に留意したいと思う。資料１の 33 ページはそういう趨勢であるという参考で捉えていただきたいと思う。

（玉村座長）

・市が数値を取り始めたのはいつからか。もし長期的なスパンで把握しているのであれば、二つが混在すると分かりにくいのでどちらかにした方がよいし、直近だけなのであれば資料１の 33 ページに両方併記して誤解を減らす工夫をした方がよいと思う。

（菅氏）

・新規求人数や待機児童数を KPI にされているが、わが社にも保育園に預けたいという従業員がいるが、勤務が朝７時からのため、６時過ぎには会社に入らなければならず、保育園に子どもを預けてくるということができなくて辞めてしまうということも多い。市内で 24 時間開園している保育園は１カ所しかないと聞いている。そういうところも改善してもらえるとより幅広く有効活用ができると思う。

・求人についても、増産があって募集しているが、２、３日経つと辞めてしまう人が大変多い。想像していたより厳しいという状況もあるようだ。マッチング率も追っていかないと、ただ求人数が多くなったからいいということではないのではないかと思う。

・地域の特産ということで EV を取り上げていただいたが、電気自動車としてだけではなく蓄電池としても使えるので、防災にも役立つ。大きな地震があっても一番最初に復旧するのは電気なので、復旧してないところに車で移動できるという役割もある。

・環境に優しいイベント屋さんを育てていきたい。ボンベの爆発被害の防止のためでもあるが、環境に優しいまちという PR にもつながると思う。

（事務局：上条政策推進部長）

・待機児童は仰るとおりで、実は追浜地域は若い世代の人口が増えている時期なので、保育所対策、学童保育対策は急務だと思っている。朝早いということのほか夜遅くまで預けられるところがないことも問題で、保育所の開園・閉園時間は検討しなければならないということで、こども育成部の方では認識をしている。引き続きしっかり検討していきたい。

（事務局：秋本経済部長）

・求人について、マッチング率は非常に大事だと認識している。ある業種にかかると求人倍率は１を超えていてなかなか人が集まらないという状況もある。雇用される側が選り好みをしていて人が集まらないという声も聞く。
・さらに、将来の推計人口では生産年齢人口の減少が激しい。雇用の場を創るということで取り組んでいるが、長期的に見ると人手不足を起こすという危機感を持っている。定年退職された方、障害をお持ちの方、家庭に入られている方も含めて、生産現場に入ってもらう取り組みを進めている。
・人口減少を止めることは難しいので、外国人労働者の一時的な導入も含め、検討に入っているところで、マッチング率を上げられるよう努力していきたい。

（玉村座長）

・現時点では総合戦略を修正するということはないと思うが、そういう観点を今後検討していこうということでよいのか。

（事務局：秋本経済部長）

・既に、生産現場にいないと思われる方に働いてもらうという意味ではテレワークの取り組みを始めた。また、介護や保育の現場で人手不足を起こしているので、外国人労働者で補充する方法など研究には入っている。
・EV については、日産自動車㈱さんとは地元産品ということで EV を進めているが、災害時のほか、横須賀の低炭素社会を目指すという都市イメージの発信にもなるので、書きぶりについては調整していきたいと思う。

（元木氏）

・今回、市内に居住している事業者として、よい戦略を作っていただいて感謝している。
・集客・プロモーションという観点から、既にイベントなどされているし戦略でも検討されているが、せっかくのそのような人が集まる場を有効に使えるよう検討してほしい。いろいろな消費を促したり、ビッグデータが取れる機会かと思う。
・市からの情報発信という観点から、ホームページなどいろいろなツールを使われているが、今はほとんどの人がスマートフォンを持っている時代である。スマートフォンに情報発信したりクーポンがついていたりするとよいのではないか。イベントは能動的に見に行けないし市の防災情報なども入ってくるとアピール効果があると思う。戦略の中にも盛り込まれているだろうが検討してもらえたらと思う。
・別冊 24 ページに「住むまちとしてのプロモーション展開」とある。横須賀に研究所を移転していくという案を進めていて秋口から人が移ってくる。以前もバスツアーを行って市の住宅状況などをみてもらう機会を設けた。今年も４月に予定している。その辺りで再度タイアップしながらこっちに住民を呼び込めたらと思うので協力をお願いしたい。

（事務局：上条政策推進部長）

・ビックデータは最も大事で、戦略を作る上で、どこから人が来てどこに滞在してどこに行くのかということが基本になければ観光に対する戦略はできないと思っている。観光立市推進基本計画をこの戦略と並行して作成しているが、かなりのビッグデータを集めて市の弱点や強みを出して作っている。観光だけではないが、ビッグデータの活用は十分に認識してこれからも活用していきたいと思う。

・情報発信の在り方についても、行政は苦手だと認識しているところである。市のホームページはスマートフォン対応になっていて、登録していただけると新しい情報が届くようになっているが、それがあまり知られていないが故のご意見と思うし、まずはそこから始めていかなければならないと思う。

・ツアーについては、何度でも行うので日程調整させてほしい。横須賀のよいところ、風光明媚なところも含めて横須賀を好きになってもらいたい。日産自動車㈱さんにも少しお話しさせていただいているが、他の企業の皆さんもいつでも協力させていただきたいと思う。

（原田氏）

・今まで全５回会議を行い、総合戦略も具体的に案が出てきて、取り組みを全て実行したら住みよい魅力的な横須賀市になると思うが、86％の市民が住みよいと思っていても市外の人は知らないので、市外に発信していかなければ、素晴らしいまちになったとしても定住しようと思わない、遊びに来ようともしないと思う。ここまでまとめ上げて、これからのステップとしては、プロモーションが大事と思う。市ではどのように考えているか。

・横須賀は米海軍基地があるので、テレビ、新聞などメディア各社では優秀な人材が配置されているが、全国区の異動の中でたまたま配置されているのであまり横須賀のことを知らない。ネタを探している状況なので、市の方から発信してほしいことを提供すれば取り上げてもらえると思う。発信してほしい内容を積極的に働きかけるとよいのではないか。

・軍港めぐりなど集客があると思うが、米海軍基地の一般開放日は一日に何万人もの集客があり、全国から来ているので、そういう時に市の魅力を書いた冊子などを配布すればもっと魅力が具体的に伝わるのではないか。プロモーションに力をいれてほしいと思う。

（事務局：上条政策推進部長）

・プロモーションの重要性については仰るとおりだと思う。この推進会議でもアンケートの結果をお示ししたが、横須賀のイメージを市外の方に聞いてみると「外国人が多いまち」というイメージが突出している。自然がある、食がおいしいというイメージがほとんどなかった。「住むまち」としてイメージされていないということであり、定住人口を増やしていくためにはここをしっかり、市民が思っている住みやすさを伝えていく必要があると思っている。

・資料３の 24 ページに、プロモーションの展開ということで項目を立てさせていただいている。具体的なものとして、今年度ぐらいから取り組んでいるが、市外向けに、横浜駅全てを横須賀一色にするようなプロモーションを行ったり、県央地域の住宅展示場を訪れる方に横須賀のバスツアーに来ませんかという募集を行ったりしている。今年度５回行ったが、千人以上の応募があった。来年度はツアーを 10 回にしようと予算を立てているところである。

・記者へのプロモーション、働きかけもそのとおりだと思っていて、待っているのではなく記者の方にこれを取り上げてほしい、取材してほしいと働きかけていくことは今まで以上に大事だと思っている。
・例えば、「知恵泉」という番組で小栗上野介忠順を取り上げていただいたが、NHK 横浜放送局に働きかけたもので、そういう働きかけをどんどんやっていく必要があると思っている。最近、少しずつではあるが、横須賀の情報が雑誌やテレビによく出るようになってきたとも言われ始めている。テレビの本数では５年前より４・５倍に増えているので、よいイメージとしてどんどん出していくことが大事だと思っている。力を入れていきたい。

（小野氏）
・資料２の 36 ページで、健康に関して、平均寿命が一番低いということで、生活習慣病とあるがもう少し記述をした方がよいのではないか。横須賀に住むと長生きできない、風光明媚だけれども寿命は短いという誤解を生んでしまうかもしれないと感じた。

（事務局：上条政策推進部長）
・平均寿命が一番短いのは事実である。人口ビジョンにはないが、これまでの資料の中で、生活習慣病になる方の割合が高いというデータがある。それに基づいて市としてはまずは受診率を上げるというような取り組みをしなければならないということで、それが戦略に盛り込まれている。積極的に発信したいとは思っていないが、市民の方が少しでも健康で長生きできるような施策も重要と考えていて、それを反省として、生活習慣病にならないように、なる前に発症をいかに抑えるかというところを目指した施策を健康部で組み入れているところである。
・人口ビジョンの 11 ページに年齢別の死亡率の比較を掲載している。大体 45 歳ぐらいから差が出ているということが分かる。その差が高年齢に引き続き出ている。40 歳手前ぐらいから考えていかなければならないと思っている。
・例えば、歯が悪かったりするのも親の世代から子に伝わっているということもあるので、子どもの頃から生活習慣を見直していく必要があるということで教育委員会とも共有している。

（中西氏）
・推進会議でこのグラフを見た時、ショックを受けると同時に納得もした。防衛省への通勤時、特に朝は時間がかかる。ある時、通勤途中に体調が悪くなった。会議でそういう話をしたが、モーニングウィング号ができて感謝している。東京方面に通勤しようと思うと、JR 湘南新宿ラインのようなものが京急にはなかったので大変だった。もう１、２本増えると健康にも寄与すると思う。

（渡邉氏）
・まず市にお礼申し上げる。政府機関の地方移転の件で、防衛大学校も他自治体から誘致があったが、まだ決定ではないものの市の努力で横須賀に留まることになりそうだ。
・以前、原田氏から、横須賀は子育てしている女性が働きにくいというご意見があったと思うが、本当にこれで十分なのか、他都市と比較して優位性があるのか、人口減少を抑えていくためには女性が働きやすいということが非常に重要だと思う。

・国、大学などで女性の採用が増えていく現状にある。防衛大学校も女性の採用を増やしていく。社会的にそういう状況なので、女性が働きやすい場を積極的に考えていくことが大事だと思う。引き続きいろいろな施策を通じて女性が働きやすいまちであるというプロモーションをしていただきたいと思う。

（玉村座長）
・総合戦略は今年度からのスタートだが、結果的にそれぞれの組織等にメリットがあるようなものを追求していただきたい。策定という意味では今回の会議になるが、推進していくという意味では協同してできることがたくさんあると思う。顔見知りになったこの環境を生かしながらモーニングウィング号や働きやすい環境づくりも進めていただきたいと思う。

（石坂氏）
・３月に戦略を作った後、市民に対してどのように分かりやすく伝えていくのか。今までは紙媒体での周知が多かったと思うが､紙媒体だと目を通さない市民が多いと思うので、その辺りも踏まえて見解を伺いたい。

（事務局：上条政策推進部長）
・これまでも、市が政策を打っていることを知らなかったという方が多かった。市の広報不足を改めていかなければならない。今、二極化していて、「広報よこすか」という紙媒体のものがあるが 40 歳代以上は７割ぐらいの方が見ている。一方、低年齢層は広報を見ないで、パソコンでもなくスマートフォンである。年齢層に応じた広報媒体を使って、より多くの方が接することができるように、また記事の内容も分かりやすくして、少しでも浸透させていく努力をしたい。
・情報発信ということが行政は苦手だったが、もうそういうことは言っていられない。よいアイデアがあれば、こういう方法があるというご提案をいただけるとありがたい。

（伊藤氏）
・いろいろなものが盛り込まれたよい戦略になったと思う。
・数値目標や KPI を置いているが、目的そのものを目標にしているものとそれに至るためのプロセス、手段が目標になっているものとがあると思う。何のためにこの目標を設定したのかということを常に意識しながら、最終的な結果を追いかけて取り組んでいく必要があると思う。
・現状で考えられるベストなものを作られていると思うが、施策を進めながら、不足しているところや新たに必要になってくることも出てくると思うので、柔軟な戦略の見直しや解釈など、目的を達成するために必要なものを付加していくような５年間で取り組んでほしい。ぜひお願いしたい。

（事務局：上条政策推進部長）
・設定した KPI の中にも目的と手段が入り交じっている。何が目的でこの事業の KPI を達成させるのかということを常に念頭に置いてこれから取り組んでいかなければならないと感じている。
・柔軟に見直しをしていくということについては、私もそのとおりだと思っていて、こちらには、これまでのデータから仮定や前提条件などを設定してこの政策をやっていけば

処方箋として将来のために最もよいのではないかということを盛り込んでいる。それが間違いだったかもしれないし最も効率的ではなかったかもしれないということは常に検証していかなければ分からない。戦略に位置付けたから何がなんでもやっていくということではなく、進めていきながら方向を変える必要があると分かった時には変えて柔軟に対応していきたい。今日の会議に限らず、これはおかしい、このようなことをもっとやっていけばよい、などと感じられることがあったらご提案いただけると参考になる。今後とも協力をお願いしたい。

（峯村氏）

・資料１の 49 ページの学童クラブの料金比較について、子どもを預けながら本学に通ってくれている職員がいるが、この経費をみると横須賀市は高額である。次年度予算案の中で解消してもらえるのか。
・その前段で、育児休業取得者が増えてきている。喜ばしいことだが、一方でどうしても働きたい方もいる。子どもを預ける場所などの予算案の状況はどうか。
・今日の新聞にも中学校給食について載っていたが、知人の雑誌編集者によれば口コミが一番のメディアとのことだ。いろいろなところで皆さんにも話をしてもらえるとよいと思う。

（事務局：上条政策推進部長）

・学童クラブについては、横須賀市は確かに高額である。資料３の 31 ページをご覧いただきたいが、今回、その認識の下に、安心して子育てできる環境にしていくために学童クラブで１項目立てている。学童クラブを小学校の中に入れていく経費、積極的な運営への支援、補助制度の充実、保育料の軽減、携わる関係者の負担軽減ということで、市としてはここには注力していかなければならないと思っている。
・このようなかたちで具体的に施策を組んでいるが、横須賀市の学童クラブの特徴の一つとして、民設民営ということがある。学童クラブの保育料を決めるのが「民」なので、市が条例を制定して一律に学童クラブの保育料を下げるということが難しい。
・しかし、学童クラブの収入が増えれば運営に余裕が出てくるところもあるので、市としてはその経費を保護者に還元するようなかたちでお願いしたいと話をしている。保育料が下がる方向に努力していきたいと思う。
・また、資料１の 47 ページをご覧いただくと、子を持つ夫婦世帯の動向ということで年少の子どもが６歳未満の世帯のうち核家族世帯である割合の推移があるが 91.8％が核家族である。その下の共働き率の推移も年々上がっている。４ページの保育所利用率の推移もどんどん上がっている。これらの傾向は今後も続いていくという認識を持っている。
・かつてのように夫一人で働いて家族を支えることが所得の伸びからも難しい。女性の就業率が上がる、その方が生活が豊かになるという考え方で、そこに市が手出しできるとすれば受け皿をいかに作っていくかだと思う。よい環境で子どもを受け入れて、安心して働けるような環境を作っていくことが市の定住人口の増加にもつながる。そういう観点からも対策を進めていきたいと思っている。

（中西氏）

・保育所の受け入れ時間について、昨年ぐらいから両立支援女性活躍という取り組みを進めている。４万５千人の海上自衛隊員のうち６％ぐらいが女性で、10 年かけて 10％ぐらいにするということで、来年度あたりから女性の採用を増やす予定である。

・女性隊員から意見聴取していると、どうしても保育所の問題があるようだ。24 時間回している組織なので、隊に泊まったり、遠方から来ている学生の食事を用意する必要があるが、朝６時頃から登庁して食事を作ったり、シフト勤務でも女性が相当数就いている。今後、趨勢としてどんどん増えるのは間違いない。
・10 年程前に田浦地区で隊内保育所を設置して定員 60～70 人程度で運営している。24 時間受け入れてくれるが料金が高額である。女性隊員の希望を聞くと、最も多いのが朝早い時間に受け入れてくれる保育所を、公設で、追浜地区や横須賀中央周辺地区にほしいということだ。
・保育士の確保が難しいと思うが、今後５年間ぐらい集中して年に１カ所でよいので朝６時頃から夜９時頃まで、そこそこの料金で受入れてくれる公設の保育所を増やしてもらえると、海上自衛隊で考えている女性を増やすという施策にも合致するのでありがたい。
・定年後も横須賀市に住み続けられるように、「すかりぶ」などのカップリング事業への参加を募ったり、横須賀商工会議所とタッグを組んだりしている。先日、総監部内の厚生センターで 25 人対 25 人でマッチングパーティーをしたが 12 組も成立した。女性は全員、横須賀市の 30 代で募った。
・54、55 歳で定年退職するので、毎年４万５千人を回すには千人ぐらい採用して千人ぐらい退職していくペースで、横須賀に限れば 600 人ぐらいが退職する。横須賀市民と結婚していれば横須賀に定住するが、独身のまま退職する人は、皆、出身地の実家に帰ってしまう。できるだけ横須賀市の女性と結婚するようにいろいろな方法で後押ししているので、子どもが増えると思う。ぜひ保育所をよろしくお願いしたい。

（玉村座長）
・そのような公的機関同士の連携で何かモデルができると、新しい仕組みが作れるかもしれないので、ぜひ検討していただけるとよいと思う。

（事務局：上条政策推進部長）
・早朝保育の希望がこれだけ多いのだなと改めて感じたので、それに見合った政策を打っていかなければならないと認識した。こども育成部と一緒に取り組んでいきたいと思う。

（原田氏）
・男女共同参画審議会の委員を務めているが、女性活躍やワーク・ライフ・バランスについて議論している。女性が働いていく上で、早朝・夜間の受け入れ態勢がある保育所は前提条件としてすごく大切だと思う。
・市でそのような取り組みをしていただけることも大切なことだと思うが、子どものことを考えたり、ワーク・ライフ・バランスなど、女性が活躍するようになるということは、その配偶者である男性も、女性が家庭で担えなくなった部分を担うことを覚悟していただかなければならない社会になると思う。
・この会議に出席されている皆さんは横須賀を代表するような権限のある方々なので、ここで皆さんにお願いしたいのだが、早朝勤務などたまには必要かもしれないが、小さい子どものいる人は免除したり、ワーク・ライフ・バランスを推進できるような働き方をぜひ取り入れていただきたいと思う。朝７時から保育所を開けていただくことはもちろん重要だが、企業でも、男女問わずそれなりに子育てをしている人に対し、家族構成を考慮した働き方や多様性のある働き方を認めていただけるような人事制度の整備などをお願いしたい。

（玉村座長）

・総論としてはあったとしても、なかなか具体的に行うことは難しいものだが、横須賀市としてこういう前提の中で皆でやっていこうではないか、半島という構造を考えても皆でそういう判断ができるとしたら他の地域よりはかなり住みやすいと思う。そのような、何か取り組んでみるきっかけがここで生まれればよいと思う。

・最初の一歩はこの戦略に含まれていると思うので、やり方についてはどんどん多様性を持たせていく。ワーク・ライフ・バランスも順番が逆かもしれないが、ライフが起点にあってワークがあるような横須賀スタイルが作れるとよいと思う。この場が一つのきっかけになるとよい。

（澄川氏）

・地域では、高齢化対策に重点が置かれている。市では、地域の公共施設の統廃合の話が出ていて、青少年会館や大きな施設を閉館していく方向にある。そうすると高齢者の集う場がなくなっていく。現状でも施設によっては３カ月待ちで取り合いをしているような状況にある。学校が中心という話は聞いているが、老朽化対策、補強等コストがかかるのだろうが今後どのように考えていくのか。

（事務局：上条政策推進部長）

・施設が不足していると言われる市民も多く、それらの声は受け止めている。一方で、人口ビジョンでも示したとおり、人口が確実に減っていく中で、同じ施設面積のままで賄っていけるかという問題になると思う。一般の家庭と同じで、例えば７人家族が３人家族になった時に、住んでいた家がその広さのままであれば管理費もかかるし稼いでくれる人も減っている中で、ダウンサイジングした家に移り住もうかということにもなる。

・我々としては、市民が便利に、趣味や余暇等で使用されている施設も含めて、現状のままでいければ一番よいと思っているが、賄っていくことを考えれば、将来の世代にまた負担を残してしまうという結果になってもよくないと思うので、今使われている方と将来の世代が負担できる財源を勘案しながらベストな選択をしていくしかないと思う。同じ税金を払っていても自分のところに還ってくるサービスが少ないということでは困る。非常に悩ましいところであるが、市民の方と一緒に考えていかなければならないと思う。最終的に合意が図られるように話し合わせていただければと思う。

（中島氏）

・今後の進め方について、実際の施策・予算立てとなると思うが、自戒を含めて、どうしても行政は縦割りの要素が強い組織なので、狭い部分の事業にはしっかりやるが外に目が向かない、部分サイジングにはなっても全体サイジングにはなっていかないということが多々ある。そういう意味ではいろいろな意味での無駄というものが出てくるかもしれない。全体をコントロールされる政策推進部や財政部が全体を見ながら、戦略に基づいた具体な事業を進めていっていただければと思う。その結果が将来の横須賀につながると思うし、この戦略の肝になると思うので、行政が皆で共有して進めていくことをお願いしたい。

２．その他

（事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長）

・今後、３月末に作成した後に冊子をお送りしたい。

・作って終わりではなく PDCA サイクルの中で効果の検証を行い、見直しをしながら進めていく。

・検証に当たっては、早速、来月から「政策評価委員会」という条例設置の附属機関で検討させていただく予定である。関係する分野から、引き続きご参画いただく方もいらっしゃるのでよろしくお願いしたい。

（事務局：上条政策推進部長）

－最終日に当たり、挨拶

・一年間どうもありがとうございました。活発な議論をしていただき、私もよい経験をさせていただいた。

・特に、これまで行政が作ってきた計画というのは、行政が自分で考えて自分で作って議会に出してということだった。今回は、国から戦略を作るべきということを示されたが、やってみると市でできることが非常に少ないということを改めて感じた。皆さんのご協力がないとよい市政ができないということを改めて実感した。

・今回のポイントとしても、これまでになく行政の外の方と連携した来年度以降の事業を非常に多く散りばめることができた。縦割りになっていては決してできないので、どこかが総括的に見ながら確実に実行できるようにしていきたいと思っているし、常に柔軟にいろいろなことに対応していきたい。今後ともよろしくお願いしたい。

12:00　開　会

（以上）